

株式会社オフィスビル総合研究所
本田広昭

“官僚”を辞書でひくと「国の行政面の仕事に従事する人（たち）」とある。おそらく隠語辞書では「融通が利かない人（たち）」と書いてあるはずだ。その辞書が手元になるので調べていないがたぶん。ビルが新築完成したときに、竣工検査が通らないと建物の使用を開始することができない法律になっているが、この検査は別名 “完了検査” と呼ばれ、関係者の間でも “官僚的検査” と感じている人は多いはずだ。なぜなら、建築法規という字句通りの判定を加えなければならず、融通などは利かないし、特例排除や責任回避の心理が働く。姉齒問題がさらに硬直さに拍車をかけるきっかけとなった。しかし、この手の官僚的態度は建築の分野に限らず、年金や薬害問題など日本中を取り巻く課題なのだが。官僚的な判定を恐れるあまり、無駄な産業廃棄物を生み出している例を上げよう。シックハウス規制が建築法規に加えられた。確認申請には元々新築時の床材は内装制限から外されているのだが、カーペットなどの床材が施行済みでなければ、接着剤などの溶剤特定ができないという官僚的な判断で検査済書を発行してくれないだろうと恐れる。建物の完成引渡のリスクにはしたくないからだ。無難なカーペットを全館敷き詰め、結果的に、オフィスデザイン領域のカーペットは剥がされて捨てられる率は3割近い。選択肢がない残りのお仕着せ床材の空間的豊かさは推して知るべしであろう。法律に融通を利かせというつもりはない。トータルな制度見直しが必要なのではないか。